

教材・支援機器活用実践事例 【音韻意識を育てるための指導】

	実施年度	平成26年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	ことばすごろく	
	授業における教師のねらい	<p>○読み書きの基礎となる、音韻意識を高めたい。</p> <p>○音を注意して聞くこと、正確に聞くこと、正しく再現することができるようになることで、平仮名学習へもスムーズに移行できるようにしたい。</p>	
	授業における子どもの目標	<p>○身近な単語を正しく聞いたり、復唱したりすることができる。</p> <p>○身近な単語がいくつかの文字でできているかがわかる。</p>	
子どもについて	学級・学校・学年	小学校・低学年 通級による指導	
	対象の障がい (種別・診断名等)	ことばの発達の遅れ (音韻意識の弱さがある)	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべりが好きで、自分の興味のある話だけでなく、教師に質問するなど、周囲への関心ももっている。 ・様々なものへの好奇心がある反面、集中力は長く続かない。 ・身近な単語でも、正しく復唱できなかつたり、音を誤って覚えてしまっていたりする。特に、単語中の「ん」が抜けることが多い。「ミカン」→「ミカー」「パイナップル」→「タイナップル」など。表記にも誤りが見られる。 	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	ことばすごろく (さいころ)	<p>【画像】</p>  <p>立方体の箱の側面に、ビニール製のCDケースを貼り付け、絵カードを入れられるようにした。</p>
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・出た面の絵を見て、その単語の文字数だけすごろくを進むようにする。 ・身近な単語を、1文字ずつ分解して捉えるための学習として行う。 ・児童が絵カードを選ぶときでも、「アが入った言葉」などの課題を設定することで、音の抽出の学習をすることができる。 	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを入れ替えできるようにしたことで、児童の課題に応じてその都度単語を選び、さいころを構成できるようにした。 ・すごろくは市販のものなどを活用できるようにした。 	
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを取り入れたことで、児童が好きな学習の1つになり、意欲的に取り組んでいた。 ・絵の名称を答えるときに、指を折って文字数を数えながら言う姿が見られた。 ・「ん」と発音する時にも1文字数えることが徐々に理解できるようになった。それにより、平仮名で表記する際の誤りが減ってきた。 ・清音や濁音、半濁音を学習した後、児童の学習の進度に合わせて、長音や拗音、促音が入った単語でさいころを構成して取り組むことができた。 	